

# 子供の癩に就て (ついき)

杉浦 恂 太郎

前號に掲げた子供の癩に就て矯正法の大略を少し述べて見やうと思ひます。

## (一) 泣き癩のある子供

之を矯正するには先づ其原因を能く調べることに肝要であります、則ち父母又は家系の中に常に涙もろく感情が強い人がありはせぬか、又さなくとも常に交り遊ぶ朋友に泣き癩のある子供から自然傳染せしものか、乃至は哀れな刺撃のみを多く與へた爲何時の間にか、涙もろくなりしか、又餘り我儘勝手のみを許して手を掛け傷り過ぎしため僅かなことにも直泣く癩が付たものかを調べますと何か原因と思はれることがあるものであります。

遺傳から來たものならば、人は容易に泣かぬものである僅かのことで泣くやうでは後に役に立つ

立派な人になれぬ、常ににこ／＼と笑つて愉快な顔をして居るものはゑらい人になれるといふことを能く言い聞かせて事々に自尊の念を喚ひ起すやうにし、又一方には快濶豪毅な性質の子供を交友として見習はせるのが善いと思ひます、又我儘などの習慣から來た癩ならば威嚴を正して其の癩を否定し、いくら泣いても少しも構はず棄置して泣くことによつて願望は通らぬものと云ふことを諦めしむるのが宜しいと思ひます、子供は病氣其の他身體に苦痛を感じる時は別として唯泣き癩のあるのに不憫の情を起し之を傷はるのは却て不親切になると思ひます。

## (二) 因循な子供

子供の多くは無邪氣で快濶で騒がし過ぎる位が通例であります、然るに舉止が不活潑で常に沈鬱で朋友にも親まず身體に指したる異状もないのに愚圖／＼として居る子供があります、これも遺傳と習慣との二つがあらうと思ひます。

生後の境遇から来たもの、中には種々な事情があります、大方は家庭の圓滿を缺きて争論が絶へぬとか、又彼是の區別を付けて取扱はれ悲觀の境遇のみが多いとか知らず識らずの中に此の氣質を養ふやうになつたのがあります。

斯やうな子供は勉めて慰安を得るやうに順境に立たしめ成るべく快瀾な朋友を選びて常に交遊せしめ一方には快瀾なる言語動作を稱揚して次第々に愉快なる表情に移るやう意を用ゐて指導することが肝要と考へます。

(二) 朋友に親しまぬ子供

子供の多くは同輩と交遊することを喜ぶものであります、中には朋友と交らず他人の愉快氣に遊ぶのを傍で茫然として唯見て居るか又は己獨り別に離れて氣に向いた遊びをして人と親しまぬ子供があります、此の性質は無論遺傳からも來ますが又境遇からも來ることがあります、幼き頃子守などに放任して置きますと子守は自分が勝手氣儘な

ことをして子供を獨り遊ばせる癖を付けて人と共に遊ぶのを樂しまぬやうな習慣は出來ます、畢竟母親が子供を他人に任せて置いて世話の無いのを喜んで居た過ちから來たものであらうと思ひます。斯様な子供には成るべく愛情と親切との勝れた友を選らんで交らせ共同の遊びと共同の作業とをさせて出來るだけ趣味の交換を自覺するやう指導し又面白き話を記憶させて互に樂みを分つやうに注意し總て具體的に導くが必要と思ひます。

(四) 依頼心の多き子供

人にたよる心は子供のみでなく大人にも多きこととは心有る人々の常に嘆て居る所では是を見ても子供を育てる上には深く注意せねばなりません、子供の中で最も甚しいのは下駄を穿くにも帽を戴くにも物を取るにも道を行くにも何から何まで人を當てにして少しも自ら進んで爲うといふ氣質の無いかのやうなものがあります、これは常に餘り世話が届き過ぎて爲し得ることも全く自ら爲さし

めぬ所からかゝる習慣を養ふやうになつた場合が多からうと思ひます、斯の性質は實に恐るべきもので其の儘成長しましたなら心身共に役に立たぬやうな人になります。

之を矯正して改めしむるには其の原因と境遇とを考へて方法を定めねばならぬと思ひます、先づ威厳を示して實行を奨励することが大切で則ち子供自ら爲し得ることは必ず之を爲さしめて決して他より之を扶助することなく其の實行の有様を親切に見て其の正しきものは賞賛を與へて勵まし、一部より次第に改めしめ漸く勤勞の習慣を得しむるやう導かねばなりません、又父母、保母、教師などは自營の模範を示し斯くの如く爲すべく、斯の如く爲すべきものであると常に身を以て率ゐるを模倣せしむるやうにすることは最も効が多からうと思ひます。

子供に自營の習慣を早くより養ふことは歐米人の家庭に富んで居ることは皆様も御承知であらうと思ひます、日本人が子供を連れて歩く時には大人の方で子供の足相應に斟酌して行きますから隨

分時間を要します、恰も子供に連れられて行くかの觀があり、歐米人は大人の歩む早さを餘り斟酌しませんから子供は後れ勝て追ひ付かうとして驅け出して行くやうなことはよく見ることであります、一寸としたことのやうですが其の間に依頼心を許さぬと云ふやうな習慣を含んで居ます、又私が先頃獨逸人の子供を托されました其の女兒は十歳です一二の事實を申しますと彼女は入學の際母が同道して能く道を教へて翌日は獨りで出しました未だ日本語も解せず近所の地形方角も知らぬ子供には餘り酷いやうでありましたから其後母に會ましたとき申しますと一度能く教へて會得したと申しましたから獨りて出して遣ましたそれを迷ふやうなことでは彼女の不肖でありますから充分誠て下さいと申しました、又其の後遅刻を

することが度々ありましたから母に注意しますと彼女には食事仕度などの時間は充分與へてありますそれを遅刻するのは怠慢か遅鈍かいづれにしても酷しく所罰して下さいと申しました、少々極端なやうでありますが参考すべき所があらうと思ひます。(ついで)